

◆茨城現地事務局からの近況報告

やっほし、うたはチカラだつて

桃井 雅和(自治労音協事務局次長)

こんにちは！ご無沙汰しております。いつのまにか自治労音協事務局次長を拝命しました茨城の桃井です。

みなさんすでにご存知のことと思いますが、今年の「はたらくもの音楽祭」は我が茨城県で開催します！！(パチパチパチ) 昨年秋季ごろ、正式に「茨城開催」が決まってから、日音協

茨城県支部のメンバーが中心となつて準備を進めてきました。そして12月21日に連合茨城、茨教祖、林野、自治労茨城の協力を得て茨城県実行委員会を立ち上げました。

その後2月8日に第2回実行委員会を開き、音楽祭のテーマ及びサブテーマを決定してきました。ポスターに刷り込んであ

りますので、みなさん確認してくださいね。現在は会場となる日立シビックセンターとの打ち合わせも済み、協力労組へのあいさつ回りや依頼文書発送などの作業をこなすなど、着々と準備を進めております。参加する方は、申し込み〆切が3月24日となっておりますのでよろしくお願ひしま

すね。音楽祭と同時進行で、自治労音協コンサートの準備も進めていますよ。毎年音楽祭に合わせて開催されていた自治労コンサートは昨年で終了しましたので、自治労音協が引き継ぐことになりました。

会場は音楽祭と全く同じです。どうせ前日から準備するので、そのまま自治労音協で使わせていただこう！という狙いです(笑)。本番の予行練習も兼ねてエントリーするのもアリだと思えますよ。

音楽祭まであとひと月ちょっと...とだけのことができるか

分かりますが、全国から集まってくれた仲間達が腹の底から楽しんでいただけるような祭典にしたいと思えます。

5月8日、みなさんとの再会を楽しみにしています。



当初の構想では「自治労なかまのうた」を中心に収録しようということでしたが、この際なりふり構ってはいられません(笑)。

みなさんが「このうた、どうかなく」とか「こんなのあるまつせ」といったネタ(音源)がありましたら、ぜひとも送っていただきたいのです！！

あまり細かいことは言わずに、みなさんが作ったうたであれば「我々の仲間が関わっている自治労音協」ということで収録OKにしましょう！！

「なかまのうた」の選を問わず、広く募集して作っちゃいましょう。

現在、2曲程度は固まつておりますが、あと2〜3曲は欲しいところです。我こそは！！と思っ方、桃井までご連絡ください。

5月の音楽祭には新たなミニアルバムがリリースできるよ、みなさんのご協力をお願いします。果たしてどうなるか？

楽しいところに人は集まる!!



第42回 はたらくもの音楽祭 入場無料
とき 2009.5/9(土) [12:00]-10(日) [9:30]
ところ 日立シビックセンター音楽ホール

主催 第42回「はたらくもの音楽祭実行委員会」 連絡先 日本音楽協議会 TEL 03-3221-1821



音楽祭会場の日立シビックセンター全景

☆CD制作について

こんにちは。CD制作班長(?)の桃井です。CD制作については、その計画をぶち上げてからかなり時間が経っておりますが、気持ちだけは進行しておりますよ(苦笑)。

その後ちよくちよくと録音作業は進めておりますが、実際なかなかネタが集まらないんですよ。そこでみなさんにお願ひです。

○桃井連絡先メール
momoi@live.ocn.ne.jp

道楽道

連載その17 ラオス子どもの家チャリテイ イブ&トーク大成功

340人の来場者を結集

白石 孝(荒川区職労書記長)

前号で紹介したとおり、1月31日に広尾のJICA「地球ひろば」で「ラオス子どもの家チャリテイイブ&トーク」を主催した。はじめは定員を200名に設定していたが、前売券が全く売れず、どうなるかやきまきしていたが、結果として340名の来場者を得ることができた。これは、首都圏に約4

00店はあるといわれているタイレストランのうち約250店をボランティアの皆さんが宣伝に歩いたり、読書、毎日、朝日の各紙が人欄などで顔写真入の報道をしてくれたり、ラオスやタイ関係のウェブサイトに情報を流したり、私の個人的つながりを総動員した成果だったと思う。(我ながら良くやった)コンサートは、第一部でラオスの歌姫アレクサンドラ・ブンスア

収益はラオス子どもに

イが2曲、ラオスの伝統音楽をベースにした曲を歌い、着替えの合間にラオス大使館書記官のお嬢さんが2曲、そしてアレクサンドラの持ち歌4曲、その後、ビエンチャンの子どもからのビデオメッセージ、

会場がコンサートにはやや厳しい条件のうえ、カラオケ音源の変換ミスや当人が前日まで論文にかりつきり(慶応大学院の留学生)で練習不足などの悪条件が重なり、私としては決して納得のいくコンサートではなかった。しかし、日本で初めての本格的なアレクサンドラのステージということもあり、ラオスファンを中心とした来場者には大好評だった。50通回収されたアンケートからも満足度の高さが感じられた。

そのうえ、収益も出て、子ども

もの家に30万円以上の寄付が出来たことで、当初の目的を達成することが出来、ほっとしている。それにしても、ラオスだけでなくタイでも彼女の人気は半端ではない。チャリテイイベントから1週間後、荒川区職労10人のラオス訪問・研修主催ツアーでラオス2都市を回ったが、そこかしこで彼女の話題となった。

さて、そのラオス訪問の際、子どもでスバン所長から1枚のCDが披露された。訪問直前に完成したCDで、その名も「ラオス・クラシック音楽」。このアルバムはフランス政府が運営する「フランス語センター」の協力によって、録音、CD化された。以下、子どもの家の運営を担っている日本のNGO、SVA(社団法人シヤンティ国際ボランティア会)の川村仁所長による解説を転載する。

演奏するメンバーは、子どもの家に長く通う20歳以下の少女たち。「マホリー」と呼ばれる大構成の楽団で演奏されている。ラナート(木琴)、ソー(胡弓の種、ケーン(ラオスの笙)、キム(打弦楽器)、クイ(縦笛)、

シンとサーブ(小さなシンバル)によって構成されている。ラオス伝統音楽と西洋音楽との違いは大きく、音階は「ドレミ」で表記されているが、1オクターブを7等分された音階を使い、半音階はない。7音のうち5音(ペンタトニック)で構成される曲が多く、沖縄民謡などと共通する。音楽と楽器の種類は、インドシナのタイやカンボジアとも共通する部分が多くあるが、ケーンという日本の笙と同様の、竹で作られた楽器こそはラオス独自で、ラオスの諺にも「世界のどこに住んでいても、もち米を食べ、高床式の家に住み、ケーンを吹くのはラオス人である」と言われている。録音はすべてライブ演奏録音で、オーバードビングは一切せず、それがゆえに各楽器の音は互いに融合しあい、大地の恵み、自然、古き時代へのノスタルジーを感じさせてくれる。

このCDを1枚2,000円(送料、寄付金込み)で販売している。申し込み先:白石まで shiratalk@com.home.ne.jp

崔善愛(チェ・ソンエ)さんのコンサート&トーク紹介

最後になったが、4月5日には、私の暮らす東久留米市で、在日コリアンのピアニスト崔善愛(チェ・ソンエ)さんのコンサート&トークを主催する。彼女は昨年暮に影書房から『父とシヨパン』を出版したが、私が読んだ本の中では数年来のベストワン。

熊本日新聞社が、自らの報道のあり方を検証した上で連載し、単行本化したハンセン病、免田事件、水俣病、川辺川ダムなどの一連の本も地方紙の魂を具体化した出色の出来で近年のベスト作として推薦したいが、彼女の文章は、朝鮮半島と日本、父と娘、そして祖国ポーランドから離れて一生を終えたシヨパンを通した在日の存在などを描いている。

在日の存在をグローバルな視点で捉えた音楽家のその深い歴史観、家族観、人間観は心に深く染み入る。この紹介は次回にしよう。



真ん中がアレクサンドラ、右はおおたか静流さん

◆私のギター人生◆ パート6

★「上達の秘訣はスケールにある」

狭石 利美(自治労東京都本部)

☆はじめのスケール練習

東京青年文化センターがギター教室を開設し、そこで講師を務めることになった私が最初に行ったことは、自分が初めてのギター教室に通うことだった。「習いながら教える」という妙なギター生活が始まった。新堀ギター音楽院の西日暮里教室に毎週通い、そこで習い覚えたことをセンターのギター教室で毎週教えた。まず習ったのはセゴヴィアのスケール。それまでスケール練習などやったことがなかった。左手の指運びには基本的な原則があり、それを覚えると確かに音楽的な要求にかなっていることが分かる。そして実際に曲を弾くときにも、自然と(無意識に)その基本に沿って指を動かすようになる。これは多分あらゆる楽器について当てはまることだと思うが、「上達の秘訣はスケール練習にある」ことを知る第一歩になっ

た。それまで独学の私は、スケール練習などしたことがなかった。ただひたすらいろんな曲を弾いて楽しんでいて、スケールの持つ意味とその練習方法を知らなかった私は、味も素っ気もないスケールなど大体はなからやろうとも思わなかった。

☆スケールは指慣らしではない

スケールは曲を弾くための指ならし、と考えている人がいるとしたら大きな間違いだ。スケールでしっかりとした基本的な音の出し方と基礎体力を身につける。そしてこれは、一回身につければそれでいいというものではなく、それ以上上達しようと思えば常に取り組まなければならない課題なのだ。適当にギターを楽しもうと思えば、誰もすぐ何か曲を弾きたくなるものだ。それはそれでかまわないし、楽器に慣れ親しむという意味では大いに必要なことでも

ある。しかし基本的なスケール練習を経ないで上達することはありえない。一定のレベルまではいくかもしれないが、必ずどこかで壁にぶつかる。そしてその壁を乗り越えるために遠い遠い回り道することになる。それを乗り越える意欲と気力がなければ、人は大体そこでそれ以上ギターを弾くことをあきらめる。弾き続けたとしてもそれ以上上達はしない。

スケール練習で大切なことは、ピアノシモからフォルテツシモまで、一つ一つの音をはっきり、よりきれいにレガートに出すため、より合理的で効率的な(そのためにはより小さな指の動きも要求される)指の動かし方を身につける、という目的意識を持って指の一本一本に神経を集中して行うことである。

☆まずはギターを弾く喜びを

センターのギター教室では、まずこのスケール練習の基本を教

えた。今思うと、まずはギターを楽しむことを真つ先に教えるべきだったと思う。ギターという楽器がどんなに楽しいか、たった一本でどんなに幅広い音楽が豊かに奏でられるのか、弾き語りなどどんなに人間の声と音質的にも音量的にもマッチしているか、まず楽しさを教え、その楽しさをもっと大きなものにするためにスケールなどの基礎練習があるんだということを理解してもらおうことが「教える」ということなのではないかと思う。まだ楽しさを味わうところまで行ってない人に「厳しさ」だけを教えていたのではな

いかと反省している。何かを習ってみようという人には、本当にものにしたという気構えを持つてくる人と、ちよつとかじつてみてやれそうだったら続けてみようかなという人、そしてその間の人と一人ひとりみんな違う。その上音楽的な素養にも差がある。その違いを見極めて、相手にあった教え方をしなければ教えることにはならない。

重要だと思ったからだ。ある意味ではこれはこれで正しいことだと今でも思っている。ただし、一方でグループレッスンや簡単な合奏などを取り入れながら、ギターを弾くことの「楽しさを体感してもらおう」努力がたぶん決定的に不足していたのだと思う。とにかく、昔を振り返るといことは、ほとんど反省することなんだなあと思う。

歌声は平和の力 歌声は闘いと共に

荒木栄の歌が聞こえる

3月21日(土)~4月10日(金)まで 21:00~

ポレポレ東中野にてレイトショー公開 TEL.03-3371-0088

【映画の内容】この通信の読者の方で、「がんばろう」の歌を知らない人はいないでしょう。♪ がんばろう 突き上げる空に ころがねの男のこぶしがある 燃え上がる女のこぶしがある ♪この歌を作った人が荒木栄である。1959年に始まった三井三池闘争の中から生まれたこの歌は、60年安保反対闘争、沖縄返還闘争、国鉄民営化反対闘争、教育基本法改悪反対闘争と歌い継がれ、メーデーの中でも歌われ続けてきた。荒木栄は大牟田に生まれ、三池炭鉱で働いていたが、音楽が好きで、合唱団を結成した。三池争議終結二年後の1962年に、38歳の若さで亡くなったが、短い生涯の間に、「地底のうた」「心はいつも夜明けだ」「花をおくろう」「沖縄を返せ」「わが母のうた」など、70曲あまりの歌を作り出し、多くの労働者に歌われた。

彼の歌は労働運動を通じ、口伝えて広がったが、「がんばろう」など、今も歌い継がれている曲は一部になり、働く人たちがスクラムを組み、歌う光景を見かけることも少なくなりました。港監督は大牟田の出身で、荒木栄の果たした役割を見直し、歌の力を伝えたいと、没後45年の昨年、この作品を作った。

荒木栄が中心的メンバーだった大牟田センター合唱団や、うたごえの仲間たちの歌だけでなく、大工哲弘、嘉門達夫、ミネハハ、かりゆしバンドなど、いろいろなジャンルの歌手が彼の歌をカバーし、現在にも通じる荒木栄の歌の魅力も探っている。また、共に闘争を続けていた人々の話から、三池闘争がどのような闘いだったのかが映し出される。

さらには、同じギターを弾き